

代々木高等学校 学校経営の目標についての自己評価

2023（令和5）年4月～2024（令和6）年3月

1 学校教育目標（目指す学校像）	
<p>○生活背景や学習歴及び進路希望等が多様な生徒が安心して安全に学ぶことができる学校</p> <p>○基礎基本の知識・技能や主体的に課題解決に取り組もうとする意欲等、これからの社会で生き抜いていくことができる学力を身に付けることができる学校</p> <p>○地域の良さを教育に生かすとともに持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する学校</p>	
2 現状と課題	
(1) 生徒について	<p>○基礎基本を自分のペースで確実に定着したいと考えている生徒、大集団の中で学習することが困難な生徒、毎日通学することは困難であるが、限られた日数であれば登校でき、提出物等について計画的に学習に取り組める生徒、さらに高校3年間を目標達成のために有効に活用したいと考えている生徒が増加している。</p> <p>○進路について真剣に悩み相談を求めている生徒が増えている。</p> <p>○宿泊集中スクーリングでは様々なふれあいや出会い、気づきあいがあり、成長を実感して帰途につく生徒の声が多く聞かれる。</p> <p>○2023年度5月1日の在籍生徒数は1023名（昨年度12月6日で986名）で、出身都道府県は全国30都道府県となっている。</p>
(2) 教職員と組織について	<p>○県内の生徒を対象として行われる年24回の通常スクーリング、年間9回実施される宿泊集中スクーリング（その他「東京SC、東海SC、大阪SC」でも実施）、レポートの添削、その間を縫って行われる個別スクーリングや補講等、教育計画は過密となっているが、生徒の多様なニーズに的確に対応するとともに、より一層充実した学習指導・生徒指導及び進路指導を実施するために指導の工夫と改善をしていく。</p> <p>○教員増となり組織の一層の充実が図られたが、初任の教員については言うまでもなく、経験豊かな教職員についても、各種の教育的な課題についての見識を深めるとともに課題解決に向けての実践力を身につけるため、各種の研修の実施を図っていく。</p> <p>○面接指導及び添削指導等をより一層適切に行うために非常勤講師の業務内容を文書等で明確に示していく。</p> <p>○多様な生徒の実態やニーズを的確に踏まえつつ教育目標の実現やさらなる生徒増を目指して、組織力の強化をしていく。</p>
(3) 学校の在り方・教育の特色、地域との連携について	<p>○組織体制を確実にするために、これまで以上により一層適切な組織編成を進めていく。</p> <p>○学費の変更や法人化に伴う変更事項・確認事項について、主旨や具体的な内容等を保護者や関係機関等に丁寧の説明し周知していく。</p> <p>○志摩スクーリングでの真珠の学習やシーカヤック体験等本校の特色ある教育内容や教育方法についてさらに充実を図り、生徒が行きたい学校、保護者が行かせたい学校、地域から信頼され必要とされる学校づくりを一層推進していく。</p> <p>○学習等支援施設との連携協力関係や業務内容等については、精査を進めているが学校法人化を推進するにあたり、教育活動の年間計画や学習等支援施設との打ち合わせ（訪問を含む）の充実を図り、さらに適切なものとなるようしていく。</p>

3 中長期的な重点目標

(前述の課題を踏まえて)

- 特色ある取り組みについては一層の充実を図るとともに、本校の魅力の一つである個に応じた丁寧な指導の充実を図る等、学校の魅力化や教育力の強化を進め、教育の実態を的確に発信し、ニーズと提供できるサービスの整合をめざして、学校のブランド力の強化を目指す。
- 効果的な生徒募集策による入学生の安定確保及びより一層充実した教育活動を実施するためのバランスのとれた予算編成と執行等、学校経営の安定化を目指した具体策の検討と実施を図る。
- 広域通信制のメリットを生かした教育の充実と地域社会への貢献を目指して、行政の協力と理解を得ながら組織体制づくりを計画的かつ確実に進めていく。
- 教職員研修については、新任者を主対象とし、特に教育の現状と課題、これから求められる指導・支援のあり方、危機管理そして不祥事防止等を中心に実施をしていく。

4 本年度の計画（2023年4月～成果と課題は年度末に記載）

項目	取組内容・指標	結果と自己評価	成果と課題
(1)生徒について	<ul style="list-style-type: none">・基礎基本の学力のより一層確実な定着・伸長を目指して、計画的なレポート提出や積極的な面接指導への参加等の指導を進めてく。また、これからの社会を生き抜くために必要となる力の育成を目指して、本校ならではの特色ある教育内容や教育方法の開発と充実を図る。・面接指導や添削指導等の学習活動を通じて、これからの社会を主体的に生き抜くために必要な力の一つとされるコミュニケーション能力の育成をしていく。また、生徒の自己肯定感や達成感や達成感等を引き出す学習活動について研究し、生徒が「探究」しようとする面接指導・添削指導等をデザインする。	<ul style="list-style-type: none">・本年度も月に1度のレポート学習会を開催し、基礎学力の定着と学習意欲の喚起を図ってきた。・きめ細かな指導を心掛け、個別の習熟度に沿った教材開発に心掛けた。・アクティブラーニングの手法を面接指導に取り入れ、対話的な学びに焦点を当てることでコミュニケーション能力の育成をしていくことに努めた。 また、各学年ホームルームでは、各生徒に「自己紹介カード」を記入させ、互いの情報交換をすることで所属意識の醸成や仲間作りの場面設定している。	<ul style="list-style-type: none">・レポート提出の遅れている生徒が例年多く発生しているが、担当が繰り返し連絡して提出を促すことで、期限を守ることができるようになった。・面接指導時に活用される自己評価カードは生徒自身が客観的評価をすることができるものであり、課題克服のための1手段として、また、教員の指導方法の改善に大いに役立てることができた。 また、入学後に孤立している生徒は減少化傾向にあり、各校内行事では複数名で積極的に参加することができるようになってきている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の一環として生徒の進路意識を醸成するとともに希望進路の実現を図るために、今年度も校内進路説明会を2回開催し、外部での進路説明会には積極的に参加させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回(夏と冬)校内進路説明会には生徒とその保護者の参加、また1, 2年生の参加生徒もあり、年々進路への関心が高まっている。 ・外部団体が開催する進路説明会には3年生を中心に参加する生徒が増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での進路説明会や外部での進路説明会への参加生徒が増加傾向にあることから、卒業後の進路への意識が高まってきていると言える。今後は、進路指導主任を中心に校内の進路指導体制をさらに充実させていきたい。
<p>(2) 教職員と組織について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の現状と課題、これから求められる教育の方向性、危機管理等をテーマに職員会議後に研修会を実施していく。その際全職員が輪番制により発表者となり各人の力量の向上や組織力の向上を図っていく。 ・指導力の向上や教職員としての意識醸成を図ることを目的に新任職員の研修を計画的に実施していく。 ・添削指導の報告課題(レポート)の学習を通じてより一層確実に生徒が学力を身につけることができるよう、教科部会を適宜開催していく。また大量の提出レポートを組織力を最大限に生かして一層効率よく、そして確実に採点し返却できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回職員会議の後に、教員で輪番制による発表形式の研修会を実施。コミュニケーション能力のスキルアップに繋がっている。 ・新任職員のスキルアップ研修については一定の効果が認められる。座学と実践を通して、教員としての資質を高められていけるようにする。 ・教科部会の適宜開催による情報共有は面接指導やレポート作成添削に大いに役立っている。 ・レポート処理については分担業務をすることにより合理性が高まり、より確実性も高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議後の研修会が定着してきた。次年度は、事務職員を含め教職員の資質向上や研修内容を還流報告するなどの工夫をしながら、さらに内容を充実していく。 ・研修をとおして身につけた知識や技術を現場で生かすには、ベテランの教職員による適切な指導や支援が必要である。OJTを職場に取り入れ、新任職員には指導力の向上を図っていく。 ・教員数および非常勤講師の確保により、一人当たりのレポート採点枚数を少なくできている。今後はレポートの形式にも工夫改善が必要とされる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌組織が有機的に機能するよう、管理職が分掌担当に課題意識を常に持つよう働きかけていく。またPDCA サイクルを活用し、組織力の強化を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内行事の事後アンケートや点検活動の報告等において、分掌組織が確実に機能しているか確認に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に管理職と個別面談を実施し、その際校務分掌への関りを確認する内容としたが、その意識に個人差が認められた。
<p>(3)学校の在り方・地域との連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学習等支援施設を訪問すること等で生徒の指導や支援及び通信教育にかかる業務そして協力・連携関係についてこれまで以上に充実をさせていく。 ・定員増員に伴い三重県私学課の指導のもと、学則変更などの申請を確実に行う。 ・中学校訪問やホームページの活用を通して、本校教育の魅力をより効果的に発信していく。 ・不登校経験者や全日制の仕組みになじめない生徒が多く在籍するようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学習支援施設を訪問することにより、課題の聞き取りや依頼事項の伝達が円滑にでき一定の成果を上げることができた。 ・学則変更の申請が受理され、今後の見通しを立てることができた。 ・昨年度以上に中学校訪問を積極的に実施した結果、問い合わせ件数が増加した。 ・様々な媒体による情報発信活動が功を奏し、転入生や編入生の増加がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な教務事務を達成するためには学習等支援施設の協力が不可欠であり、情報共有を今後一層充実させていく必要がある。 ・2006年度は定員増加に伴い、業務の煩雑化が考えられることからより一層の整理合理化が必要とされる。業務の偏り解消や働き方改革の積極的推進のためにも校務分掌組織の作成には工夫改善に努めていく。 ・次年度の特別活動では地元の企業への積極的な関りに努めていく。